隊員と家族をつなぐ 家族会ほっとライン

航空自衛隊衛生の紹介と取り組みについて

航空幕僚監部　首席衛生官　空将補　桒田　成雄

はじめに

自衛隊家族会の皆さん、こんにちは。私は市ヶ谷にあります防衛省航空幕僚監部で首席衛生官を拝命しております桒田（くわだ）と申します。防衛医科大学校を平成4年に卒業した後、約30年を航空自衛隊の医官として勤務して参りました。

この度は「おやばと」紙への寄稿の機会をいただきましたので、航空自衛隊の衛生業務についてご紹介させていただきます。

航空自衛隊の衛生業務

航空自衛隊の衛生業務には、3つの柱があります。各種事態に対応する隊員を支える事態対処医療、操縦者を始めとする航空従事者を支える航空医学、そして隊員の壮健性を維持する保健医療です。

事態対処医療については、他自衛隊と同じく第一線救護衛生員の養成などにより外傷救護能力の確保を図っていますが、航空自衛隊ならではの機能として、愛知県小牧基地に所在する航空機動衛生隊があります。C－130HやC－2輸送機に「空飛ぶ集中治療室」といわれる機動衛生ユニット（写真1）を搭載することにより、重い傷病のため、移動中も高度な医療監視、処置が必要な患者を遠く離れた地域まで運ぶことができます。

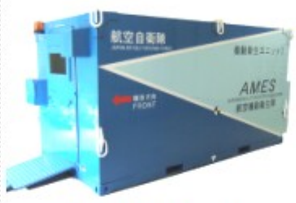

写真1：機動衛生ユニット

平成18年に新編されたこの部隊は、東日本大震災を皮切りに、災害派遣として、日本各地の重症患者で、専門の医療施設における臓器移植や補助人工心臓埋め込み術が必要な方を搬送する任務に従事し、令和元年には内閣総理大臣特別賞状をいただいたほか、本年6月には災害派遣として50例目の任務を完遂するなど、日本の医療にとってかけがえのない機能として活躍しています。

次に、航空医学機能を中心となって担うのが、埼玉県入間基地に所在する航空医学実験隊です。

航空自衛隊が発足して間もない昭和32年に創設された同隊は、高空の低気圧、音速を超える戦闘機の操縦に伴う加速度（Gと呼ばれます）などの厳しい航空環境において精強かつ安全に任務を遂行できるよう、各種の調査研究、訓練などを実施しています。

遠心力発生装置（写真2）は、度々テレビ番組でも紹介されているので、ご覧になった方もいるかもしれません。

さて、隊員の壮健性、入隊から退官までの数十年にわたり、厳しい訓練、任務に耐え得る健康を維持し、人生百年時代といわれる中、第二の人生でも活躍いただくことは、家族会の皆さんと私たちの等しく願いとするところであります。

写真2：遠心力発生装置

保健医療機能を担うのが、各基地の衛生隊（医務室）および令和4年に入間基地に新編された自衛隊入間病院です。

隊員の皆さんは、採用時の身体検査で、厳しい任務を支障なく遂行できる健康状態を確認して入隊されます。入隊後は、年1回の定期健康診断、各種任務に先立って行なわれる臨時健康診断および業務内容に応じて実施される特別健康診断によって健康状態を確認しています。

定期健康診断では年齢別に検査項目が異なりますが、航空自衛隊では、生活習慣病その他の病気を早期に発見するため、通常35歳以上の隊員に実施する肝機能、コレステロールなどの血清脂質、心電図、腎機能などの検査を、20歳、25歳および30歳の隊員にも追加して実施しています。判定は、A～Dの4段階であり、C、D判定となった隊員には、生活習慣改善、必要な受診などを指示し、各種訓練、任務のために臨時健康診断を受ける際には、B判定以上に改善することを条件としています。また、未受検の項目がある場合は理由の如何を問わずD判定とすることで、受検漏れを防いでいます。

なお、操縦者を始めとする航空従事者には、航空業務に求められる健康状態を確保するため、航空身体検査を年1回行い、特に40歳以上の操縦者は、これを自衛隊入間病院で行うことにより、異常の早期発見、早期治療を図っています。

航空自衛隊の各基地には、防衛医大卒業者を中心とする医官、公募による歯科医官を配置してこれらの業務に従事させています。また、技官の心理療法士が、隊員の皆さんの心の健康管理を担っています。

航空自衛隊には、日本周辺の警戒監視を行うレーダー部隊、また弾道ミサイル対処に当たる高射部隊が所在する多くの分屯基地があり、これらには年1回の巡回診療を実施してきました。私も平成6年の初度配置は北海道の奥尻島で、前年の北海道南西沖地震の爪痕が残る島で1年間勤務させていただくほか、平成13年からは那覇基地衛生隊長として、7つの分屯基地に巡回診療を行いました。近年発達著しいIT技術を用いた取り組みとして、昨年度より遠隔診療の試行を開始しており、いずれ全ての分屯基地で、メンタルヘルスの相談と合わせて実施できるよう整備を進めていきます。

おわりに

以上簡単ではございますが、航空自衛隊の衛生業務の概要について、ご紹介いたしました。私たちはこれからも、隊員の皆さんが安全に任務を遂行できるよう努めて参ります。

ご家族の皆さんにおかれましても、ご心配なことがありましたら何でも最寄りの基地の衛生隊などにご相談ください。

入隊病院　航空機動衛生隊　航空医学実験隊

中国地域協議会

3年ぶりに地域協議会開催
式典、懇親会、研修と実り多き協議会

あいさつする福谷中国地域協議会会長

9月7日、本年度の中国地域協議会（福谷憲会長）が鳥取県自衛隊家族会（吉田憲一会長）担当により、県市内の阪急ホテルにおいて開催されました。中国地域協議会総会は、中国地域5県家族会が順番で担当しており、コロナ禍によって中止を余儀なくされ3年振りの開催で、久し振りの交歓とともに同じ悩みなどを抱えている中国各県家族会の役員が一堂に会することの意義を考え、福谷会長および吉田会長の強力なリーダーシップと地元鳥取県家族会会員による強い支援により開催の運びとなりました。

また、恒例の記念式典、懇親会も国会議員、県市長、自衛隊部隊指揮官などの来賓をお招きして実施しました。

今回の討議内容は、家族会本部から提示のあった「家族支援協力態勢の整備について」および昨年度の家族会活動表彰（募集協力活動優秀賞）の被表彰県、それも2年連続の表彰であった鳥取県家族会による「募集協力活動の具体策」についてでした。

最初の議題の家族支援協力については、陸海空3自衛隊と本部による協定の締結が本年完了したことを受けて、各県の協定締結状況を確認するとともに、その協定の下での活動についての問題点や苦労について発表が実施されました。より具体的な内容に進むに従って唱に引き続き、来賓の多くの国会議員の先生、地元県市長からのあいさつがあり、その中においても家族会の活動の重要性と会員の日頃の努力に対する感謝の言葉がありました。

記念講演では、海上自衛隊呉地方総監二川達也海将により「安保三文書と海上自衛隊の現在」の題目でお話をいただきました。「堅い話で」と、総監は自嘲気味に話されておりましたが、昨年12月の当該文書を受けての時宜にかなった内容であり、参加者は、真剣に拝聴しておりました。

その後、懇親の場に移り、その苦労を思うと胸をしめつけられるようでした。

会議終了後、記念行事が実施され、大声での国歌斉唱に引き続き、来賓の多くの国会議員の先生、地元県市長からのあいさつがあり、その中においても家族会の活動の重要性と会員の日頃の努力に対する感謝の言葉がありました。

記念講演では、海上自衛隊呉地方総監二川達也海将により「安保三文書と海上自衛隊の現在」の題目でお話をいただきました。「堅い話で」と、総監は自嘲気味に話されておりましたが、昨年12月の当該文書を受けての時宜にかなった内容であり、参加者は、真剣に拝聴しておりました。

その後、懇親の場に移り、久し振りの交歓とともに同じ悩みなどを抱えている中国各県家族会の役員が一堂に会することの意義を考え、福谷会長および吉田会長の強力なリーダーシップと地元鳥取県家族会会員による強い支援により開催の運びとなりました。

また、恒例の記念式典、懇親会も国会議員、県市長、自衛隊部隊指揮官などの来賓をお招きして実施しました。

今回の討議内容は、家族会本部から提示のあった「家族支援協力態勢の整備について」および昨年度の家族会活動表彰（募集協力活動優秀賞）の被表彰県、鳥取県家族会による「募集協力活動の具体策」についてでした。

最初の議題の家族支援協力については、陸海空3自衛隊と本部による協定の締結が本年完了したことを受けて、各県の協定締結状況を確認するとともに、その協定の下での活動についての問題点や苦労について発表が実施されました。より具体的な内容に進むに従って唱に引き続き、来賓の多くの国会議員の先生、地元県市長からのあいさつがあり、その中においても家族会の活動の重要性と会員の日頃の努力に対する感謝の言葉がありました。

記念講演では、海上自衛隊呉地方総監二川達也海将により「安保三文書と海上自衛隊の現在」の題目でお話をいただきました。「堅い話で」と、総監は自嘲気味に話されておりましたが、昨年12月の当該文書を受けての時宜にかなった内容であり、参加者は、真剣に拝聴しておりました。

その後、懇親の場に移り、久し振りの交歓とともに同じ悩みなどを抱えている中国各県家族会の役員が一堂に会することの意義を考え、福谷会長および吉田会長の強力なリーダーシップと地元鳥取県家族会会員による強い支援により開催の運びとなりました。

また、恒例の記念式典、懇親会も国会議員、県市長、自衛隊部隊指揮官などの来賓をお招きして実施しました。

今回の討議内容は、家族会本部から提示のあった「家族支援協力態勢の整備について」および昨年度の家族会活動表彰（募集協力活動優秀賞）の被表彰県、鳥取県家族会による「募集協力活動の具体策」についてでした。

最初の議題の家族支援協力については、陸海空3自衛隊と本部による協定の締結が本年完了したことを受けて、各県の協定締結状況を確認するとともに、その協定の下での活動についての問題点や苦労について発表が実施されました。より具体的な内容に進むに従って唱に引き続き、来賓の多くの国会議員の先生、地元県市長からのあいさつがあり、その中においても家族会の活動の重要性と会員の日頃の努力に対する感謝の言葉がありました。

記念講演では、海上自衛隊呉地方総監二川達也海将により「安保三文書と海上自衛隊の現在」の題目でお話をいただきました。「堅い話で」と、総監は自嘲気味に話されておりましたが、昨年12月の当該文書を受けての時宜にかなった内容であり、参加者は、真剣に拝聴しておりました。

その後、懇親の場に移り、

九州・沖縄地域協議会

地域協議会・総監部との連絡会同
いろいろな話題で懇親を深める

九州・沖縄地域協議会総会風景

令和5年度自衛隊家族会「九州・沖縄地域協議会総会」および西方総監部主催の「総監部との連絡会同」が9月12日、熊本県熊本市のホテル熊本テルサで開催されました。

「地域協議会総会」は、大分県廣崎会長の開会のことばで始まり、国旗掲揚、国歌斉唱、殉職隊員および物故会員の霊に黙祷「私たちの信条」朗読に引き続き、令和4年度事業報告・決算報告・監査報告並びに令和5年度事業計画案・予算案、役員についての審議を行いました。

役員では、今回の総会で長崎県は浦田会長から前川要次会長に、10月末で九州・沖縄地域協議会兼熊本県井上会長から光永邦保会長に交代する決議が行われました。

各県会長などの意見交換では、福岡県からの「家族会の現況と問題点について」の発表に続き、各県の現状と問題点、解決方法に関する発表がありました。

「地域協議会総会」に引き続き、総監部の弥頭人事部長担任で「総監部との連絡会同」が開催され、募集の現況、援護、家族支援、人事施策の情報発信が行われ、特に家族支援について積極的な意見交換が行われました。

また、鹿児島県家族会の有村会長、沖縄県の吉門会長による家族会からの情報発信が初めて実施されました。

その後、総監部行政副長北島陸将補、各県地方協力本部長などが参加して意見交換会が行われました。今年はコロナ前と同様一時間半で総会や会同では話せなかったことなどいろいろな話題で盛り上がり懇親を深めることができました。

翌13日は、健軍駐屯地を訪問。冒頭、大平浩募集課長から「昨日の家族会総会」「総監部との連絡会同」「意見交換会」を通じて、家族会の状況、問題点などが理解できたので、今後はもっと話し合う機会を持ちたいとのあいさつがありました。その後、募集および広報ビデオ鑑賞、新隊員教育研修、会食を行い充実した「地域協議会」を行うことができました。

（九州・沖縄地域協議会担当　運営委員　深津　孔）

霧島・福山（鹿児島県）

小さな町の家族会定期総会
バーベキューで盛り上がり

霧島市福山町家族会（松下守会長）は7月23日、町内にある畜産センター（半露天で牛の検査などで使用）で定期総会を実施。総会の後はバーベキューを楽しみながら、ビンゴゲームや空くじなしの抽選会、国分駐屯地から駆けつけた隊員のラッパ演奏で、大いに盛り上がりました。

4年ぶりの総会を楽しみに待っていた会員30人が参加（総員40人）したほか、鹿児島地本国分募集事務所長、担当広報官、行政の自衛隊担当者にも出席いただきました。

コロナウイルス感染防止のため、4年間はほとんどの行事が中止になり、会員の連携も薄れかけた感もあります。

柳井（山口県）

DW（ディフェンスワールド）の記事をもとに勉強会
陸海空の部隊編成や統合運用の勉強

ディフェンスワールドで勉強会

山口県自衛隊家族会柳井支部は、6月23日に定期総会を実施しました。

総会の後、ディフェンスワールドの記事をもとに、概念に触れました。

総合募集情報誌ディフェンスワールドは全員に行き渡っていませんが配布を楽しみにしています。

（山口県自衛隊家族会　柳井支部　前田　芳徳）

家族会長奮闘戦記　77

会員の確保が喫緊の課題

徳島県自衛隊家族会　会長　岩野幸男

序文

皆さんこんにちは。徳島県自衛隊家族会会長の岩野幸男と申します。

昨年から齋藤前会長の後任として就任し一年半が過ぎました。どうぞよろしくお願いいたします。

郷土の概要

本県は、四国の東端に位置し、北は瀬戸内海から紀伊水道、南は太平洋に面しており、人口は約70万人であり、8市15町1村で比較的小規模な県です。全面積の80%が山地であり、人口の多くは吉野川沿いや河口付近の平野部に集中しています。

県下の自衛隊の部隊は、海上自衛隊徳島教育航空群（松茂町）、海上自衛隊第24航空隊（小松島市）、陸上自衛隊第14飛行隊（北徳島分屯地）、陸上自衛隊第14施設隊（徳島駐屯地）が所在しております。

家族会の現況など

家族会は、県下5地区協議会、18地区会会員約525人をもって構成されております。

全盛期には、県下45地区会、会員2075人と全盛を誇ったようでありますが、会員数の減少は否めない状況にあります。今後は、会員数の確保が喫緊の課題であろうと思われます。

家族会の存在とその必要性についていかに若い親御さんの理解を得るかが、今後の会員増強の要と考え、入隊・入校式における丁寧な家族会の紹介と各地区での入隊・入校激励会を積極的に実施しています。

現在、陸上自衛隊を中心に家族支援業務施策が進められておりますが、部隊指揮官などの家族会に対する期待もより強くなっていることを肌で感じております。

そこで各部隊で隊員から家族への家族会へ入会促進をしていただけたら入会の手助けになるのではないでしょうか。

徳島県自衛隊家族会は、SNS「一直樹さん」を開設（管理者・徳島地区会の乃家族会FB）し、「徳島県自衛隊」での情報発信をしています。興味のある方は是非ご覧下さい。

また、活発に活動している女性部はさまざまなイベントに参加し、防衛協会・隊友会との協賛による支援・協力活動、入隊・入校激励会をはじめ海上自衛隊基地祭、駐屯地記念行事、艦艇入港歓迎行事などで、自衛官の募集活動、並びに各種広報活動を展開しています。

元気で華やかに明るく、和気あいあいと行事を盛り上げて活動しており、家族会自慢の存在です。

今後の家族会活動

最近の自衛隊の任務は自国の防衛にとどまらず、国際貢献などの重要な任務が課せられています。

また、戦略三文書の制定など、国民の自衛隊に対する関心も高まり、今後においては、われら家族が想像もしない厳しい任務を担うものではないかと思われます。

このような中にあって、会員一同は、情勢の変化に柔軟に対応しつつ、自衛隊徳島地方協力本部をはじめとする県内所在部隊、各協力団体との連携をより一層深めながら「自衛官であるわが子弟を預かるに思い」後ろ盾となれるよう、意識の向上と団結を図りつつ、子供たちが安心して自衛隊生活が送れるように応援するのが重要な仕事と思われます。

むすびに

新米会長ですが、これから家族会の目的達成のため頑張る所存です。理事をはじめ、各地区長、会員の皆さんと多くのコミュニケーションを重ねながら楽しく、明るい家族会にしていきたいと考えております。なお一層のご協力よろしくお願い申し上げます。

上三川（栃木県）

夏休みに親子で自衛隊の活動を学ぼう
家族会主催の百里基地見学

畜産センターで集合撮影

自衛隊栃木地方協力本部真岡募集案内所（所長・麦倉准陸尉）は8月23日、上三川町自衛隊家族会（杉山芳男会長）主催の航空自衛隊百里基地見学を支援しました。今回の見学は、家族会が自治体広報誌を活用して学生とその保護者を対象に参加者を募り、34人が参加しました。

出発前のバス車内では、上三川町長が参加者にむけて、あいさつを行い「災害発生時には自治体と自衛隊の連携協力は必要不可欠です。隊員の皆さんの日々の活動について基地見学を通じて見聞と理解を深めてきて欲しい」と話しました。

基地見学では、F－2戦闘機および救難機を見学し、それぞれのパイロットから装備品説明の他に警戒態勢任務、災害時の人命救助、航空輸送などの説明を受けました。

憧れのF－2戦闘機見学の様子

同行した保護者からは「かっこいい！」との歓声があがり、救難機については活動内容の説明に感慨深く耳を傾けていました。

「夏休み中なので社会科見学も兼ねて親子で参加しました。24時間365日の任務ともいわれる自衛隊の日々の活動内容を知ることができました」などの感想があり、自治体と自衛隊との関わりや自衛隊の役割を親子で一緒に学べる有意義な機会となりました。

真岡募集案内所は、今後も、基地見学は自衛隊を理解していただく良い機会と捉え、見学会の支援に取り組んでいきます。

（自衛隊栃木地方協力本部　真岡募集案内所）

伊丹（兵庫県）

海上自衛隊舞鶴基地研修
護衛艦に乗艦し、貴重な体験

海軍記念館講堂で記念撮影

9月2日、海上自衛隊舞鶴基地研修を伊丹市家族会会員13人に加え、兵庫県家族会から田上幸枝副会長にも参加いただき14人で実施しました。

実施に際しましては、兵庫地方協力本部伊丹地域事務所長・松浦稔1等陸尉、広報官・加藤伸祐2等陸曹、広報官・川原宏大3等陸曹に調整からバス運行、説明まで支援をいただきました。

現地到着後、海軍記念館にて舞鶴基地と日本海防衛の歴史を学び、明治天皇をお迎えした講堂で記念撮影を行いました。

その後北岸壁に係留する護衛艦「ひゅうが」に乗艦し、格納庫内では業務の展示を巡覧し、格納庫から甲板へエレベーターで実際に昇降するなど貴重な体験ができました。

陸上自衛隊からも装備品展示が実施され、今津駐屯地、福知山駐屯地、八尾駐屯地などから沢山の車両・ヘリなどが集められて来場者の人気を博していました。

装備品展示の場で、任務遂行中の家族会員子息自衛官の激励を行いました。

昼食は、隣接している赤れんがパークで提供される「自衛艦ふゆづき公認カレー」をテイクアウトし、舞鶴基地の配慮でご用意いただいた会議室（歴史的建造物）内で食べることができました。昼食後、会長以下代表4人で舞鶴地方総監（下津市海将）総監部幕僚長（櫻井真吾海将補）を表敬訪問し、部隊と家族会の親睦をはかりました。

帰路、最後に五老ヶ岳公園展望台から舞鶴港に停泊する艦船を見て名残を惜しみながら久方ぶりに実施できた研修会を終了しました。

伊丹自衛隊家族会は今後も引き続き自衛隊、自衛官を応援してまいります。

（伊丹自衛隊家族会　副会長　夏川　和浩）

編集後記

▽1面、一連の国際会議において、岸田文雄総理大臣は日本の立場を強調し、関係諸国との信頼関係を深化させました。

▽3面、戦略三文書に基づく2年目の令和6年度の概算要求の概要を掲載しました。1面と併せてご精読ください。

▽5面、各地で、陸・海・空自衛隊サマーフレンドシップキャンペーン活動を実施しております。各地区家族会も広報活動を支援しています。一人でも多くの募集につながることを願っています。

▽7面、シニアの鉄人では、陸自OBの古田清悟氏の寄稿「人生の醍醐味とは、長寿命時代をどう生きるか」です。人生百年時代を迎え、仕事にしろ、趣味にしろ人生を満喫したいものです。